

字幕制作仕様書（その4）

1. 目的

本仕様書は、放送大学学園（以下「本学園」という。）が制作するテレビ授業番組の字幕制作業務についての仕様を定めるものである。

2. 請負範囲

契約相手方は、本仕様書により字幕制作を行うものとし、その請負範囲は次のとおりとする。

（1）字幕制作対象

別添1「2026年度字幕制作対象番組一覧（テレビ授業科目～その4）」のとおりとする。

（2）字幕データ（ARIB規格）の作成

番組素材の映像情報を要約し、字幕データ（ARIB規格）を作成する。

（3）字幕データ（ARIB規格）等の納入

字幕データ（ARIB規格）、字幕原稿ファイル（字幕、ルビ、時間情報、ページが入ったもの。）及び申し送り書ファイル（ルビや表記上の問題点、制作上での連絡事項などを記載したもの。）を納入期限までに納入する。

3. 準拠規格

字幕制作にあたっては、本仕様書によるほか、一般社団法人電波産業会の規格（ARIB STD-B36 及び B24）に準拠するものとする。

4. 字幕制作の実施要領

本学園及び契約相手方は、以下の実施要領に沿って字幕制作を行う。

（1）発注及び字幕制作の開始

本学園は、契約相手方に字幕制作発注票をメールで送付し、発注を行う。

契約相手方は、本学園からの発注を受けて字幕制作を開始すること。

（2）クラウドサービスの利用

本学園と契約相手方とは、本学園が別に指定するクラウドサービス（以下「指定クラウドサービス」という。）を利用する。

契約相手方は、受注後、速やかに指定クラウドサービスのアカウントを作成し、適正にアカウントを管理すること。

（3）素材データの提供・ダウンロード・管理

本学園は指定クラウドサービスを利用して、契約相手方に次の素材データを提供する。

- ・番組映像データ（MP4形式）
- ・印刷教材（PDF形式）（印刷教材の紙冊子版が必要な場合は、契約相手方において購入手配を行うこと。）
- ・台本データ（Word形式又はPDF形式。番組によっては無い場合もある。）

契約相手方は、素材データを適正に管理すること。また、字幕の制作完了後には素材データを確実に消去すること。

(4) 納入計画表の作成

契約相手方は、字幕制作が完成したものから順次納入を進めていく内容の納入計画表を作成する。作成した納入計画表はメール等により提出し、本学園の計画承認を得ること。また、字幕制作過程で大幅な計画変更が生じた場合には、納入計画表を再作成のうえ本学園の承認を得ること。

納入計画表には4. (8)に定める1次納入の予定を記載する。

また、4. (9)に定める最終納入については、1次納入完了時点で、必要があれば、本学園から納入計画表の作成を指示するものとする。

(5) 字幕データ (ARIB 規格) の作成

契約相手方は、本学園から受け取った素材データを用いて、本学園の定める別添2「字幕データ等の納入方法」及び別添3「字幕制作基本ルール」を遵守し、データの制作を行う。

(6) 字幕表示タイミングの調整等

契約相手方は4. (5)の作成にあたっては、字幕データを字幕として表示した画面と映像素材とが正しく同期するよう、字幕の表示時間を指定し、時間情報を入力する。

(7) 試写・修正

契約相手方は、出来上がった字幕データを試写し、文字の間違い、字幕の表現、字幕の色、映像と字幕の一致、読み取れる秒数の設定時間等を確認し修正する。

(8) 1次納入

1次納入とは、「契約相手方が本学園の指示に基づく対応を行った成果物の納入」をいう。

契約相手方は、字幕制作が完了したものから順次、7. に定める納入期限までにメール等により提出する。

1次納入にあたっては、4. (5)～(7)の工程において十分に品質を確認すること。

1次納入後、本学園の確認時、字幕データの修正事項が10箇所以上あり、再納入に該当すると判断した場合、契約相手方は再納入指示に基づき修正のうえ再納入を行うこと。

(9) 最終納入

最終納入とは、「1次納入について、本学園からの修正指示に従い契約相手方が修正を行い、本学園が最終合格と認めた納入成果物」をいう。

契約相手方は、すみやかに必要な修正を行い、完了したものから順次、メール等により本学園へ提出する。

本学園が最終確認に要する期間も考慮のうえ、7. に定める納入期限までに完了させること。

(10) 最終納入完了後の修正

契約相手方は、本学園に最終納入された字幕データについて、修正の必要が発生したときは、本件の契約期間にかかわらず、最終納入完了後2年間においては、本学園からの求めに応じ、無償で速やかに修正を行うこと。

5. 著作権の処理

(1) 字幕制作に関する著作権の処理は、本学園が行う。

(2) 契約相手方が字幕制作を完成した結果生じた一切の権利（著作権法（昭和45年法律第48号）第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は、本学園に帰属する。

本学園及び本学園が指定する第三者によるこれらの権利の行使（編集、削除する場合を含む。）につい

て、契約相手方は異議を申し立てない。また、契約相手方は、本件著作物について、本学園及び本学園が指定する第三者に対して著作人格権を行使しない。

契約相手方は、この権利の帰属等につき問題の生じないよう要約等の作成にあたって、契約相手方の責任で処理を行う。

6. 成果物納入先

納入成果物として、次のデータをメール等で放送大学学園 放送部 企画編成課 番組素材係に提出すること。

- ・字幕データ（ARIB 規格）
- ・字幕原稿ファイル(Excel 形式)/字幕、時間情報、ページが入ったもの。
- ・字幕原稿ファイル(PDF 形式)/字幕、ルビ、時間情報、ページが入ったもの。
- ・申し送り書ファイル(Excel 形式)/ルビや表記上の問題点、制作上での連絡事項などを記載したもの。

7. 納入期限

(1) 第1学期制作

- ア 1次納入：2026年6月5日(金)
- イ 最終納入：2026年8月28日(金)

(2) 第2学期制作

- ア 1次納入：2026年9月4日(金)
- イ 最終納入：2027年2月26日(金)

注1) 1次納入は4. (4)で提出する納入計画表に従い、完成したものから順次納入すること。

注2) 最終納入は、本学園から指示に従い、完成したものから順次納入すること（本学園からの指示に基づく納入計画表がある場合には、それに従うこと。）。

注3) 上記に示す納入期限はあくまでも最終の納入期限であり、全本数を一括で納入する期限でないことに留意すること。

8. その他

(1) 公募型見積合わせへの参加条件

過去3年以内に、放送法（昭和25年法律第132号）の定める基幹放送事業者が放送する番組の字幕として45分以上の字幕制作を50本以上制作した実績を有することを証明する書類及び本契約の履行に係る字幕制作体制図を提出すること。

字幕制作体制図には、次の事項を記載し、部門・担当者間の連携がわかるようにすること。

- ・本学園との窓口（連絡担当者）の役職及び氏名
- ・字幕制作統括者の役職及び氏名
- ・字幕制作担当者（「A」、「B」等の呼称で可。氏名までは不要。）、担当科目数、作業場所
(例) 字幕制作担当者A：3科目・職場
字幕制作担当者B：1科目・リモートワーク 等
- ・具体的な字幕チェック体制
(例) セルフチェック：各字幕制作担当者
一次チェック：字幕制作担当者Aの字幕はBが、Bの字幕はAが相互にチェックする。
二次チェック：字幕制作統括者（専用チェッカー） 等
※相互チェックなのか専用チェッカーがいるのかがわかるように明記すること。
- ・字幕制作統括者と字幕制作担当者間の主なコミュニケーション手段

(例) メール、チャット、IT ツールのプロジェクトスペース、対面での週次ミーティング 等

(2) 公募型見積合わせへの参加に際しての技術的事項等に関する審査

本業務の調達に際し、公募型見積合わせへの参加希望者（以下「参加希望者」という。）に対して、字幕制作に関する技術的事項に加えて過去の業務実績も加味した審査を実施する。審査に不合格となった者の見積書を無効とする。

ア 字幕制作に関する技術的事項に関する審査

(ア) 参加希望者は、審査用提供素材の守秘義務遵守に関する誓約書を提出のうえ、本学園が別途提示する番組の一部（15 分～20 分程度）について字幕制作を行い、期限までに字幕データ等を提出すること。なお、本学園は、本件に係る経費を負担しない。

(イ) 本学園は、字幕制作を行うため、参加希望者に対して以下の素材データを提供する。

- ・番組映像データ（MP4 形式）
- ・台本データ（Word 形式又は PDF 形式。番組によっては無い場合もある。）

参加希望者は、素材データを適正に管理すること。また、本業務の受注者が決定した時点で素材データを確実に消去すること。

(ウ) 参加希望者は、本仕様書 4.（5）～（7）の指示に従って、（ウ）で提供された素材データを用いて字幕制作を行い、公募型見積合わせの提出期限までに、以下の電子ファイルを電子メールに添付して本学園に提出すること。

- ・字幕データ (ARIB 規格)
- ・字幕原稿ファイル (Excel 形式) / 字幕、時間情報、ページが入ったもの。
- ・字幕原稿ファイル (PDF 形式) / 字幕、ルビ、時間情報、ページが入ったもの。
- ・申し送り書ファイル (Excel 形式) / ルビや表記上の問題点、制作上での連絡事項などを記載したもの。

(エ) 本学園は、提出された字幕データ等について、「別添 4 字幕技術審査確認シート」に示された項目ごとに記載された判断基準を満たしているかを審査し、指摘件数をカウントする。

指摘件数のカウントについては、判断基準ごとに満たしていない箇所が複数あった場合には、その複数箇所を指摘件数として、それぞれカウントする。ただし、字幕データ (ARIB 規格) と字幕原稿ファイル (Excel 形式 / PDF 形式) のそれぞれにおいて判断基準を満たしていない箇所が同一箇所の場合には、指摘件数として重複カウントしない。

イ 過去の業務実績に関する審査

参加希望者に、過去（概ね 1 年以内）に本学園が本業務と同等程度の業務を請負わせていた場合にあっては、当時の業務遂行状況その他の業務実績を考慮する。

項目	判断基準	点数
過去の業務遂行その他の業務実績に関する特段の事情（契約相手方の責によるものに限る。）	著しい支障が生じていた	10
	一定の支障が生じていた	5
	特段の支障はなかった	0
本業務と同等程度の業務を請負わせていた実績がない場合	—	0

ウ 合否判定

ア（エ）の指摘件数及びイの点数の合計値が 15 点未満の者を合格とする。

- （3）契約相手方は制作日程の遅れが発生した場合などには、制作日程の遵守を可能とする字幕制作体制の再構築を行うとともに、字幕制作体制等について説明すること。
- （4）契約相手方は、本業務の全部を一括して第三者に請け負わせる再委託をしてはならない。
本業務の一部を第三者に請け負わせる再委託をする場合、契約相手方は、あらかじめ所定の事項について本学園に申請したうえで、承諾を得なければならない。
- （5）本仕様書について疑義が生じた場合は、双方協議のうえ解決するものとする。

以上

2026 年度字幕制作対象番組一覧（テレビ授業科目～その4）

No. 1～3は第1学期に、No. 4～6は第2学期に制作するものとする。

No.	番組名（放送回）	本数
1	肢体不自由児の教育（' 2 6）（第1回～第15回）	15
2	社会・集団・家族心理学（' 2 6）（第1回～第15回）	15
3	神経・生理心理学（' 2 6）（第1回～第15回）	15
4	電気と磁気の物理（' 2 6）（第1回～第15回）	15
5	情報デザイン（' 2 6）（第1回～第15回）	15
6	母性看護学（' 2 6）（第1回～第15回）	15

※番組1本あたり45分

字幕番組送出用データ等の納入方法（テレビ・ラジオ共通）

1 納入方法

次の電子ファイルをメール等により提出してください。

- ・字幕番組送出用データ
- ・字幕テキストファイル
- ・申し送り書

ファイル名は番組名、放送回が分かる名前を付けてください。

また、ウィルスチェックソフトによりウィルス感染がされていないことを確認してから送付してください。

2 納入ファイルの仕様

（1）字幕番組送出用データ

① 規格

対応標準規格	策定
デジタルテレビジョン放送におけるデジタル字幕ファイル交換フォーマット	A R I B S T D - B 3 6
デジタル放送のデータ符号化および伝送仕様	A R I B S T D - B 2 4

② 字幕制作機での出力について

出力はA R I B字幕の仕様で行ってください。

納入後においても、文字色、文字配置・送出および消去時刻等の変更を加え、その結果をA R I B出力することが可能であること。

③ 素材フォーマットについて

H D用字幕素材を納入してください。

④ ファイル名

ファイル名	拡張子
「字幕制作業務発注票」の素材番組コード（8桁の半角数字）	.1HD

字幕制作基本ルール（テレビ・ラジオ共通）

2025年3月作成

※印の箇所はテレビのみの記述

▲印の箇所はラジオのみの記述

基本編

制作の基本

- ・大学の授業にふさわしい文章で制作を行う。
- ・**基本的に音声をもとに字幕を制作する。**
- ・聞き取れないもの、明らかに間違っている場合などは印刷教材等を参照に補正する。
字幕のもとになる素材の優先順位 **音声＞印刷教材＞台本＞※パターン(テレビの場合)**
字幕表記は、印刷教材に基づく(特に漢字など)。
- ※ (ただし、引用文に関しては印刷教材だけでなく、テロップ/パターンにも掲載されていることが
- ※ あるため、字幕表記の優先順位は、**印刷教材＞テロップ/パターン＞台本**とする。)
- ことばの表記基準は「NHK漢字表記辞典」を参考に制作。「表記・表現」（別シート）を参照。
(ただし、印刷教材＞NHK漢字表記辞典)
- ・わからない言葉や聞き取れない言葉はできる限り調べる。
- ・不明点、実際の音声と表記を変えた場合などは必ず申し送り書に記載する。
「申し送り書(例)」（別シート）を参照。
- ・必要に応じて要約を行う。「要約例」（別シート）を参照。
- ・A R I B T R - B 1 4 の運用規格を遵守して制作すること。

文字数

- ・1ページあたり2行、全角30文字とする。

文字配置

- ・縦位置は画面の下、横位置は中央（センタリング）とする。
- ※ ただし、パターンや指し棒、発話者の顔等と重なる場合は重ならないように適当な位置に移動する。
- ※ 学園は緊急放送の表示を行わないため、一番上に字幕を移動することも可能。
- ・字幕が2行にわたる場合は、2行目の左端を1行目より半角右にずらす。
ただし、2行目が15.5文字で1行目に余裕がある場合やテロップ等をよける場合※は1行目を半角右にずらすこともある。
- ・15.5文字×2行に全て収まる場合、半角ずらす必要はない。
- ・上段が句点で終わり、下段が次ページにまたがる場合は、下段に文章を書かない。但し4秒以内なら可。

文字色

- ・音楽、ナレーションは白色とする。
- ・担当講師（メイン＝印刷教材執筆者、2人いる場合は先に記載してある講師）は黄色とする。
ただし、出演者が複数いる場合は話者によって色を変える。
- ・色の変え方は**表記編**を参照すること。
- ・ユーザー外字を除くすべての字幕について、黒の縁取りを行うこと。

字幕背景色

- ・ルビ部分も含め、字幕背景色は半透明グレーとする。
- ・「NAB背景色半輝度白の変換色」の設定を【透過 全輝黒(65)】にする。

1 ページの表示時間

- ・2 秒以上（原則は 2 秒だがやむを得ない場合は申し送りに理由を記述）。

番組の開始(字幕テキストファイル(例)参照)

- ※ ・番組開始 2 秒から「♪～
- ※ （テーマ音楽）」 と 2 行にわたって 1 ページ内に表示する。
- ※ ・番組開始 7 秒から「♪～」とする（「(テーマ音楽)」を消去）。
- ▲ ・冒頭のテーマ音楽の音出は 10:00:02 とし「♪～（テーマ音楽）」を表示
- ▲ ・番組冒頭のアナウンスは字幕制作を行う。
- ▲ 詳細は「ラジオ用字幕テキストファイル（例）」（別シート）を参照してください。
- ・音楽が終わったら「♪～」を消去する。
- ・いずれも左下に寄せる

番組の終了(字幕テキストファイル(例)参照)

- ・担当講師の最後のコメントを消去する。
- ・音楽が始まったら「♪～」を左下に 1 回表示し、終わったら消去する。
- ▲ ・番組終了時のアナウンスは字幕制作を行う。
- ▲ ただし、番組制作スタッフ部分の字幕制作は不要とする。
- ▲ 詳細は「ラジオ用字幕テキストファイル（例）」（別シート）を参照してください。
- ・番組開始後 4 4 分～ 4 5 分は音声が入っていても透明半角スペースを入れる(背景色も透明)。

禁止事項

- ・ノンスペーシング文字は使用しないこと。「【注意】使用禁止文字」（別シート）を参照。
 - ・外字は原則使用しないこと（外字「追加記号（デジタル）」は使用可）。
- ユーザー外字は放送大学が作成のものを使用すること。使用の際は申し送り書に記載すること。
- 「申し送り書(例)」（別シート）を参照。
- ・機種依存文字（環境依存文字）は使用しないこと。
 - ・特殊記号を入力する際は必ず申し送り書に記載すること。「申し送り書(例)」（別シート）を参照。

表記編

出演者の文字色の変え方

- ・複数の出演者がいる場合は文字色を変える。
 - 黄色：メイン講師（印刷教材執筆者、2人いる場合は先に記載してある講師）
 - 青色：サブ講師又はアシスタント（講義中2番目に重要な人物）
 - 緑色：3人目の出演者
 - 白色：4人目以上の出演者、ナレーション、音楽等
- ※4人以上の出演者がいる場合は白色。ただし、人物が変わった場合は緑も使用。
- ※登場人物が多く、色分けが困難な場合は要相談。
- ・2人以上で一緒に発声しているときの優先順位の色
 - 例）先生+アシスタント：黄色
 - アシスタント+その他：青色
- ・スキット・インタビュー等で3人が話す場合は青・緑・白の3色を使用することは可能。
- ・ナレーションへの対応について
 - ナレーションには、発話者名の表示「(ナレーション)」はせず、ナレーション内容の表記はそのまま白字で内容を記載する。
- ・固有名詞は無くても、何らかの名称を入れる
 - 例）（学生）（児童）（参加者）など
- ・申し送り書に出演者と色の区別を記載する。「申し送り書(例)」(別シート)を参照。
- ・聴覚障害者が複数の発話者を区別できるように必ず色分けする。

ルビの付け方

- ・文字の上に付ける。
- ・初出のみに付ける。
- ・ルビを付けた言葉は申し送り書に記載する。
- ・ルビを付けるもの
 - 「NHK漢字表記辞典」に準拠する難読の漢字
 - 人名
 - 地名（国名・都道府県名・県庁所在地を除く）
 - 自然科学や気象学等のギリシャ文字
 - 記号（例：「－」をマイナスかハイホンか区別したほうがよい場合）
- 「NHK漢字表記辞典」に難読の漢字としての記載はないが、放送授業での講師の発話や印刷教材で使用され、ARIBで表記可能だが通常では使わない漢字表記となる場合。
- 例：碇泊(ていはく) 通常では停泊であるが、碇泊の場合にはルビを付与する。
 - アルファベット表記をそのまま読まない場合
 - 例：UNICEF ユニセフ、SDGs エスディー・ジーズ、ASEAN アセアン
 - 漢字一文字の「力」、「口」、「工」については、カタカナとの混同を防ぐため都度ルビを付与する。
 - ・同一の言葉で読み方が2通りある場合、読み間違いを防ぐため、ルビ付与する。
 - (例)あり得る(ありえる、ありうるの2通り)
 - ・印刷教材やパターンにルビが付与されている場合でも、字幕にルビ付与する(ただし、初出のみ)。

- ・ルビを付けないもの
アルファベット表記をそのまま読む場合 例：MRI検査、IMF、UN
英語表記の発話
ローマ字読みの場合 例：SAKURA
中黒を含む表記にルビを付与する場合、中黒部分にはルビは不要。

句読点

- ・句点は半角「。」で使用する（行の途中で文が続くときは「。」の後に半角スペースを入れる）。
- ・読点「、」は使用しない。読点が必要な場合は半角スペースを入れる。
ただし、項目を並列列挙する場合は読点を使用してもよい。
例：いずも、こんごう、あさぎり、あさひ
ILO、UNESCO、WHO等

発話者名の表示

- ・「(発話者の名字)」を発話の冒頭に付け、発話者が変わるとに発話冒頭に表示する。
- ・敬称及びルビは不要。
(岡部先生) × ⇒ (岡部) ○
(宮本さん) × ⇒ (宮本) ○
- ・「(ナレーション)」は使用しない。
- ・2人以上が同時に発話する場合 (2人)、(3人)
- ・全員が同時に発話する場合 (全員)
- ※ ・ナレーションによるオープンキャプションやパターン読み上げの前後の発話者が同一の場合、
- ※ ・オープンキャプション、ナレーション終了後の最初のページに発話者名を表示すること。
- ・インターミッション前後の発話者が同一の場合、インターミッション終了後の最初のページに発話者名表示は不要。

インターミッション（ジングル）

- ※ ・透明半角スペースを入れる（背景色も透明）。
- ▲ ・音符マーク「♪～」を入れる。

ページの連続について

- ・ページの末尾に矢印「→」を記載して続ける。
- ・ページの連続は字幕の読みやすさを考えて概ね5ページまでとする。
- ・句点の後はそれ以降ページは連続しないので矢印は不要。
- ・会話や引用文などをカギカッコで複数ページにわたり表記する場合で、各ページの最後が句点でさらに次のページに続く場合でも、句点の後に→を付ける必要はない。

カタカナ

- ・1行で15文字以内に収まる用語は全角にする。
- ・コンピュータ、コミュニティなどの用語は印刷教材の表記に合わせる。
例：コンピュータ コンピューター
コミュニティ コミュニティー

漢字

- ・常用漢字でないが、表記できる場合はそのまま使用、表記できないものはカタカナで表記

数字

- ・原則、算用数字を使用する。 注）印刷教材の表記と併せてください
- ・1桁は全角、2桁以上は半角とする。
- ・コンマ「,」で位取りをする（読点「.」ではないので注意）。

例：1,234 1億2,345万

ただし、電話番号や西暦にはコンマを付けない。

- ・ x^2 、 CO^2 、 H_2O などの数字は1／4角とする。

単位（初出にルビを付与すること。）

- ・g、m、t など1文字の場合は全角とする。
- ・kg、km、mLなど2文字の場合は半角とする。
- ・ m^2 などの数字は1／4角を使用する。
- ・3箇月、5カ国などの“カ”は全角とする。ただし、印刷教材の表記に合わせる。
- ・印刷教材が縦書きの場合、単位はカタカナで記載されるが字幕は横書きのため記号で表記すること。

アルファベット・ギリシャ文字

- ・1文字の場合は全角、2文字以上は半角

記号

- ・全角 ？ クエスチョンマーク、！ エクスクラメーションマーク、％ パーセント
- ・半角 （ ） 丸括弧、「 」 かぎ括弧、『 』 二重かぎ括弧、・ 中黒、“ ” ’ ’ “ ” ‘ ’ クォーテーションマーク
： コロン、. ピリオド
- ・他の記号は左右の文字や数字とのバランス、印刷教材での表記に合わせて適宜サイズを変える。
例：／スラッシュ、<> 小なり大なり
- ・－（ハイフン）が長音符とともに使われている場合、区別するため全角で表記する。
ただし、印刷教材が半角表記の場合は、印刷教材に合わせること。

固有名詞

- ・重要な語句は「」でわかりやすくする。
例：「はやぶさ」「きぼう」
- ・動物、花などは文字での識別をしやすいようにカタカナにする。
例：カエル アサガオ

科目名

- ・科目名には「XXXXXX」（かぎかっこ）をつける。

表現・要約編

内容を理解するのに必要のない言葉は省略する。

「要約例」（別シート）参照

逆接ではない「けれども」等は使わない。

「要約例」（別シート）参照

文字数を短縮、又は冗長さを避けるため、敬語の水準は下げてもよい。

例：～ございます ⇒ ～です ～あります

例：お話します ⇒ 話します 「ご」「お」は使わない。

ただし、意味が通じなくなる場合は残す。

例：おむすび ご飯 など

パターン読み上げ

※ ・引用文を含むパターンの読み上げの場合、原文通りに記載するため読点を使っても良い。

※ また、引用元の原文に記載されている部分はカギカッコで括る。

※ ・全く同じ内容を読み上げている場合、最初と最後の言葉のみ字幕にして後は「～」で省略可

※ 例：「吾輩は猫である。～見当がつかぬ。」「日本国民は、正当に～達成することを誓う。」

※ （省略できるのは、主に文学作品や法律の条文など長文のもの）

※ ただし、読み上げていても以下の場合は、省略せずに字幕を作成する。

※ ・1 ページの文字数に収まるもの

※ ・パターンにないことを補足している場合

オープンキャプション(スーパー)が付いている場合

※ ・字幕を省略する。ただし、断片的にスーパーが入っている場合は、一連の意味が通じるように

※ 字幕を付ける（省略しない）。

終助詞の「ね」は不要

例： 付いていますね ⇒ 付いています

ただし、インタビュー、会話の場合、学生へ呼びかけている場合などは「ね」を使用することもある。

特に、確認のために「～ですよ？ 」と聞いている場合は「～です。」としない。

話し言葉のくだけた表現は、原則として直す（「表記・表現」（別シート）も参照）。

例： 乗つけた ⇒ 乗せた
～なんですけど ⇒ ～なのですが
どこか ⇒ どこか
～してる ⇒ ～している
見れる ⇒ 見られる
いい ⇒ よい（良い）

会話やインタビュー、スキット等はできるだけ発話の言葉を生かすが、読みづらい場合は要約することもある。

講師の音声では「が」や「は」が抜けていることがあるので補う。

例： 問題ございますけれども ⇒ 問題がありますが
 お相撲さん量れませんよね ⇒ 相撲取りは量れません

体言止めは避ける。

例外として、パターンを読み上げなどで並列列挙の場合は

・○○○

・□□□

「・」を用いて項目であることを表してもよい。

もしくは

○○○、

□□□、

「、」で文が分かれていることを表す場合は「、」を使用してもよい。

ただし、このような表記を用いた場合でも、文脈がつながっていることが前提。

並列列挙

並列列挙の接続詞は揃えるようにする。

(例)第一に… 第二に… 第三に…

※ 外国語翻訳文や歌詞などパターンが出ている場合は字幕は表示しない。
※ 例：さくら さくら～ ⇒ 透明半角スペース（背景色も透明）

理数系科目の字幕の付け方

「理数系科目の字幕の付け方」（別シート）を参照

その他

人を表す「方」について

原則、発話どおりに作成する。

「障がいを持つ」は「障がいのある」にする。

「障害」は、「障がい」にするケースもある（講師の判断による）。

講師の判断により、本ルールに拠らない対応をすることもある。

英語表記について（補足）

文節ごとに改行、改ページを行う(ただし、文節が同じ行内に収まらない場合はそのままでも問題ない。)。

引用、定義、作品タイトルなどの表記は、一重カギカッコではなく、ダブルクォーテーションで表記する。

※ 字幕位置について
※ 可能な限り、話者の顔（特に口の部分）にかぶらないように字幕を配置する。

理数系科目の字幕の付け方 注意点

別添3

【外字】

理数系科目で使用する以下の特別な記号は外字を使います。なお外字ファイルは、放送大学学園から送付いたします。

(全角 ……数学特有の文字は全角では使用しません。)

半角 ……4つ

	0x0	0x1	0x2	0x3	0x4	0x5	0x6	0x7	0x8	0x9	0xA	0xB	0xC	0xD	0xE
0x9000	À	ü	ö	ä	ß	Û	Ü	ë	é	É	ð	φ	◊	≠	
0x9010															

使用例

$$z = \int \frac{\partial z}{\partial x} dx = x^2 + xy + g(y)$$

偏微分

$$\varphi(n) = \prod_{k=1}^d (p_k^{e_k} - p_k^{e_k-1}) = n \prod_{k=1}^d \left(1 - \frac{1}{p_k}\right)$$

ファイ関数

$$(g \circ f)(x) := g(f(x))$$

合成関数

$$a \neq b$$

等号否定(恒等式)

追加記号(デジタル)は、ユーザ固有の外字ではないため普通に使用して構わない。

【ひらがな表記とする】

※印刷教材に表記があれば、印刷教材に従うこと。

足す → たす
引く → ひく
掛ける → かける
割る → わる

元 → もと
断る → ことわる
決まり → きまり

【注意文の挿入】

番組先頭部分と最後の部分に注意喚起の文言を入れる。

P1【ご注意】

数式の表記の仕方について

P2 √記号が含まれている数式は

ルート(a+1)のように表示しています。

P3 必ず印刷教材で

ご確認をお願いします。

【数式表記上の特記事項】

$$\sqrt{a+1} \rightarrow \text{ルート}(a+1)$$

$$-\frac{x}{2+\theta} \rightarrow -\frac{x}{2+\theta}$$

マイナースと分数の間に透明半角スペースを入れる

講師が数式を読み上げている場合、パターンや当該箇所の印刷教材を参考にして数式を表記すること。
数式表記が難しい場合は文章で表記しても良い。

【注意】使用禁止文字**別添 3**

いかなる作業工程でも、ノンスペーシング文字は使用しないでください。

※外字は、原則使用しないでください。（外字「追加記号（デジタル）」は使用可）

ノンスペーシング文字一覧

記号	名称	8単位符号コード（HEX）
’	アキュートアクセント	0x212D
`	グレーブアクセント	0x212E
¨	ウムラウト	0x212F
^	アクセントハット	0x2130
—	オーバーライン	0x2131
—	アンダーライン	0x2132
○	大きな丸	0x227E

要約例

別添 3

要約前（音声）		要約後（字幕）	要約のポイント
だからそこはよくある意味で覚悟して取り組んでいただければありがたいと思います。	⇒	ですからそこは覚悟して取り組んでください。	内容を理解するのに必要のない言葉は省略する。
最頻値というのがありますけどこれは次回お話しします。	⇒	最頻値については 次回 話します	内容を理解するのに必要のない言葉は省略する。
はい 始めましょう。	⇒	始めましょう。	内容を理解するのに必要のない言葉は省略する。
～方法なのですけども	⇒	～方法です。	逆接ではない「けれども」はできるだけ使わない。
～方法なのですけども	⇒	～方法ですが	逆接の「けれども」は「が」で置き換えて文字数を減らすこともある。
これを大きく分けて心理統計法の基礎が前半後半が展開ということで分けてあります。	⇒	前半は心理統計法の基礎 後半は応用に分けてあります。	同じ言葉の重複があるため重複しないように要約している。例の場合は「分けて」が重複している。

表記・表現

別添 3

※各回での表記は統一し、表記のゆれにご注意ください（例）子供、子ども／例えば、たとえば
ことばの表記は「NHK漢字表記辞典」を参考に制作してください。（ただし、印刷教材＞NHK漢字表記辞典）

ことばの表記例

○(丸)	⇒	「お」を英数全角「O」にして表記してください
○ヶ月、○か月、○箇月	⇒	○カ月
今日 (こんにち)	⇒	「今日」には、出現ごとに「こんにち」とルビ付与してください

表現例

思うんです	⇒	思うのです
そうなんです	⇒	そうなのです
いろんな	⇒	いろいろな
してもいい、言ってもいい、行ってもいい	⇒	してもよい、言ってもよい、行ってもよい

授業番組名と放送回を記載

10:00:02:00から字幕開始

*** 生涯学習支援番組などは講師確認なし
講師確認がある場合は事前に連絡します**

1 ページの表示時間は、原則 2 秒以上

15文字以内のカタカナは全角

15文字を超えるカタカナは半角

音楽が終わったら音符マークを消去

最後の送出時間、消去時間の値は固定

番組名		放送回	番組素材コード	
運動と健康（'22）		第12回	14009121	
文字色				
役名	氏名	色	話者名	留意点
講師	渡邊貴裕	黄	（渡邊）	
ききて	岩田まこ都	青	（岩田）	
エクササイズ	内丸仁	緑	（内丸）	
インタビュー	村上光輝	白	（村上）	
ゲスト	佐野優人	白	（佐野）	

申し送り事項

ページ	インタイム	字幕	備考欄
5	10:00:50:15	渡邊貴裕	ルビ付与（わたなべ たかひろ） 印刷教材の著者一覧及び 以下サイトを参照しました。 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000621731/
11	10:01:18:00	岩田まこ都	ルビ付与（いわた） ルビ付与（と） 次のサイトを参照しました。 https://www.c-folder.co.jp/talent/iwata_makoto/
24	10:02:00:15	村上光輝	ルビ付与（むらかみ みつてる） TC 19:40付近のテロップおよび下記サイトを参照しました。 https://www.juntendo.ac.jp/hss/hito/murakami-mitsuteru.html
25	10:02:05:00	のち	印刷教材P183を参照しました。
27	10:02:11:15	佐野優人	ルビ付与（さの ゆうと） 以下のサイトとTC 02:23付近のテロップを参照しました。 https://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/2020_olympic/place/kawagoe/gorin_sanoyuto.html
32	10:02:26:00	学生	音声は「生徒」ですが、大学生のため単語を置き換えました。
60	10:04:06:15	kg	ルビ付与(キログラム)
70	10:04:42:15	体	印刷教材P176を参照し、渡邊先生の回は「体」で統一しました。
90	10:06:01:15	m	ルビ付与(メートル)
91	10:06:08:00	共	印刷教材P179を参照し合わせました。
139	10:09:02:00	嬉しい	ルビ付与（うれ） 印刷教材P176に合わせ、全編で漢字にしました。
176	10:11:15:15	K-1	下記サイトを参照しました。 https://www.k-1.co.jp/
178	10:11:24:15	いわれる	印刷教材P177「いえる」を参照しました。
194	10:12:16:00	傷痕	ルビ付与（しょうい）
199	10:12:43:15	すべて	印刷教材P182に合わせ、全編で平仮名にしました。
213	10:13:47:00	2016年のリオパラリンピックで 女子が5位でした。	内容の確認として、下記サイトを参照しました。 http://games.parasapo.tokyo/rioparalympic/column/976/
570	10:37:00:15	つくる	印刷教材185ページの表記を使用しました。印刷教材で表記が揺れているため、引用箇所以外は「NHK漢字表記辞典」の「作る」で統一しました。

＊ 漢字の数に比べルビの数が多い(少ない)場合やバランスの悪い場合は、原則として中央に付ける。

	か	が	み	(1/4角 スペース)	(1/4角 スペース)	さ	ち	こ	
加賀美幸子									

	う	だ	こ	う	じ	(1/4角 スペース)	(1/4角 スペース)	(1/4角 スペース)	み	き	
宇多小路美紀											

＊ ルビを付ける漢字の前後の文字によって、位置をずらすこともある。

			な	ぎ	さ				い			
私	は		渚	伝	い	に	行	っ	た			

			な	ぎ	さ							
こ	こ	の	渚	が	好	き	で	す				

＊ 2単語以上の固有名詞の場合、単語ごとにルビを付ける。

き	よ	ね	(1/4角 スペース)	そ	ん
清音村					

＊ 熟語の最後の漢字が、もともとルビを付けなくてもよい漢字で、前の漢字と分離してもおかしくない場合は、付けなくてもよい。

さ	か	い	み	な	と	
境港市						

	ら	せ	ん		
螺旋状					

* 人名の場合、姓と名と別々の単語と考えて、それぞれの漢字の読みに合わせる。

な	が	い	(1/4角 スペース)	つ	よ	し
長		井			豪	

く	さ	な	ぎ	(1/4角 スペース)	つ	よ	し
草		薙			剛		

* ルビがつながってしまう場合は、見づらいので半角空ける。

く	ど	う	(1/4角 スペース)	か	ん	く	ろ	う	
工		藤		官		九		朗	

さ	き	が	け	(1/4角 スペース)	ふ	み	ひ	こ
魁			史		彦			

* ルビが多すぎて小文字スペースもあけられないときには、続ける場合もある。

あ	た	ら	し	ひ	と	し
新				仁		

* 二字熟語のとき、最初の漢字のルビが3文字、最後の漢字のルビが2文字の場合

き	よ	く	ざ	い
局		在		

* 二字熟語のとき、最初の漢字のルビが1文字、最後の漢字のルビが2文字の場合

	し	ぼ	う
子	房		

* 二字熟語のとき、最初の漢字のルビが2文字、最後の漢字のルビが1文字の場合

ひ	ら	い	
平	井		

* 二字熟語のとき、最初の漢字のルビが1文字、最後の漢字のルビが3文字の場合

ほ	じ	ょ	う
圃	場		

* 漢字1文字に対し、ルビが1文字の場合

	し		
雌	ず	い	

別添 4 字幕技術審査確認シート

技術審査実施日 年 月 日

制作会社名
番組名/回数

No	項目		判断基準	字幕データ (ARIB) の誤り	指摘件数
基本編					
1	1-1	制作の基本	漢字の表記は印刷教材に基づき、表記のゆれ(同音異義語やひらがなの混在)がないこと。		
	1-2		誤字、脱字のないこと。		
2	2-1	文字配置	縦位置:画面の下、横位置:中央(センタリング)		
	2-2		字幕が2行にわたる場合、2行目の左端を1行目より半角右にずらす。		
	2-3		上段が句点で終わり、下段が次ページにまたがる場合には下段には文章を書かない。		
3	3-1	1ページの表示時間	2秒以上とする。		
4	4-1	番組の開始	番組開始2秒から ♪～ (テーマ音楽) と2行にわたって1ページ内に表示する。		
	4-2		番組開始7秒から「♪～」とする(「(テーマ音楽)」を消去)。		
5	5-1	禁止事項	ノンスペーシング文字は使用しないこと。		
	5-2		外字は放送大学が支給するもの以外使用しないこと。 追加記号「デジタル外字」は使用可。		
	5-3		環境依存文字は使用しないこと。		
表記編					
1	1-1	発言者の文字色	複数の出演者がいる場合の文字色は以下とする。 黄色:メイン講師 青色:サブ講師又はアシスタント 緑色:3人目の出演者 白色:4人目以上の出演者、ナレーション、音楽等		
	2		2-1	ルビの付け方	文字の上に付ける。
	2-2	初出のみに付ける。			
3	3-1	ルビを付けるもの	人名		
	3-2		地名(国名、都道府県名、県庁所在地を除く)		
	3-3		ギリシャ文字(自然科学や気象学等)		
	3-4		印刷教材でルビを付けている漢字		
4	4-1	句読点	句点は半角「。」を使用する。		
	4-2		読点「、」は使用しない。読点が必要な場合は半角スペースを入れる。 ただし、項目を並列列挙する場合、引用文で読点を用いている場合は読点を使用してもよい。 例1) いずも、こんごう、あさぎり、あさひ 例2) 日本国憲法 第一章「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。」		
5	5-1	話者名の表示	(話者の名字)を発言の冒頭に付け、発話者が変わるとに発話冒頭に表示する。		
	5-2		敬称及びルビは不要とする。		
	5-3		(ナレーション)は使用しないこと。		
6	6-1	インターミッション(ジングル)	透明半角スペースを入れる(背景色も透明)。		
7	7-1	ページの連続	ページの末尾に矢印「→」を記載して続ける。		
8	8-1	カタカナ	15文字以内で可能な範囲で全角にする。		
9	9-1	数字	印刷教材の表記に合わせる。印刷教材にないものは算用数字を使用する。		
	9-2		1桁は全角、2桁以上は半角とする。		
	9-3		コンマ「,」で位取りをする。		
	9-4		上付き数字、下付き数字は1/4角とする。		
10	10-1	単位	初出にルビを付与すること。		
	10-2		1文字の場合は全角とする。(g、m、tなど)		
	10-3		2文字以上の場合は半角とする。(kg、km、mLなど)		
	10-4		上付き数字は1/4角を使用する。		
11	11-1	アルファベット ギリシャ文字	1文字は全角、2文字以上は半角とする。		
12	12-1	記号	二重かぎ括弧『』(半角)は書籍などのタイトル表記で使用する。		
	12-2		二重かぎ括弧『』(半角)はかぎ括弧「」(半角)の中でさらにかぎ括弧を使うときに使用する。		
	12-3		？、！は全角、・(中黒)は半角とする。		
13	13-1	科目名	科目名にはかぎ括弧「」をつける。		
表現・要約編					
1	1-1	字幕の省略	オープンキャプション(スーパー)が入っている箇所の字幕は省略する。(断片的であれば省略しない)		
	1-2		外国語翻訳文や歌詞などパターンが出ている場合には字幕は表示しない。		
その他					
1	1-1	「障害」の表記	「障害を持つ」は「障がいのある」に変更する。		
字幕原稿ファイル(Excel/PDF)					
1	1-1		字幕データ(ARIB)と同一の内容であること。		
申し送り書ファイル					
1	1-1		ルビや表記上の問題点、判断に迷った場合にどういう基準で字幕付与を行ったか等、制作上での連絡事項などが記載されている。		
	1-2		インターネットで調べた場合は、出典URLが記載されている。		
			合計		

注1) チェック欄の記入方法 ○:指摘事項なし ×:指摘事項あり -:対象なし
注2) 判断基準ごとに満たしていない箇所が複数あった場合には、その複数箇所を指摘件数として、それぞれカウントする。
注3) 字幕データと字幕原稿ファイルにおいて判断基準を満たしていない箇所が同一箇所の場合には、指摘件数として重複カウントしない。